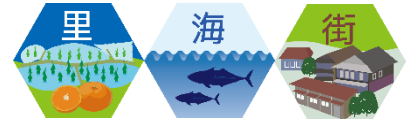


幸地区



【地区の自然環境概要】

幸地区は、里、海及び街の要素を持つ地区です。

西部には市街地のそばにも「城山公園」などの豊かな緑が広がり、市民の安らぎの場となっています。また、市街地から山地に遷移する丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

中央には小田原市のシンボルである「小田原城天守閣」がそびえ、周囲を取り囲む「小田原城址公園」には、観光の中心地でありながら豊かな緑や水辺が広がり、動植物の生育・生息の場にもなっています。

「小田原城址公園」より東側は、住宅地が多い一方、かまぼこや干物などの水産加工品の店舗が並んでおり、海のなりわいを感じることができます。この地域は、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。

東南側で0.5kmにわたり相模湾に面する海岸は、半自然の砂浜海岸が残っており、海浜を好む動植物の生育・生息の場となっています。また、広大な海は魚類等の動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

市街地を主体としながらも「小田原城址公園」や「御幸の浜」など特有の環境を持ち、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。県内でも希少な水生植物なども見られ、大切に守っていききたい環境です。

- 「小田原城址公園」には主に植栽起源ではありますが、クロマツやスダジイの巨木が生育しています。キジバトやシジュウカラ等の鳥類やアオスジアゲハ等の昆虫類などが見られ、緑の多い住宅地を特徴づける種が生息しています。¹また、アオダイショウやシマヘビ、ヒガシニホントカゲ等の爬虫類も多く確認されています。²
- 「小田原城址公園」のお堀では、オオバンやカワセミ等の鳥類、クロスジギンヤンマやコシアキトンボ等の昆虫類などの水生動物を身近で見ることができます。近年あまり見られなくなったハスやウキクサ等の水生植物も生育し³、ヒシ（絶滅危惧種）は県内で唯一確認できる場所です。また、平成30年（2018年）にはニホンスッポンの産卵行動が確認されるなど⁴、市内でも特有な環境となっています。
- 「御幸の浜」海岸にはハマダイコンやハマヒルガオ等の海浜植物が生育できる砂浜が残っており、市の鳥であるコアジサシ（絶滅危惧種）やウミネコ、ハマベハサミムシ等の昆虫類などが見られ、河口や海岸を特徴づける種が生息しています。⁵

¹ 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果

² 参考：平成29年（2017年）～令和元年（2019年）に実施したヒアリング調査結果

³ 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果

⁴ 参考：平成29年（2017年）～令和元年（2019年）に実施したヒアリング調査結果

⁵ 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果



シジュウカラ

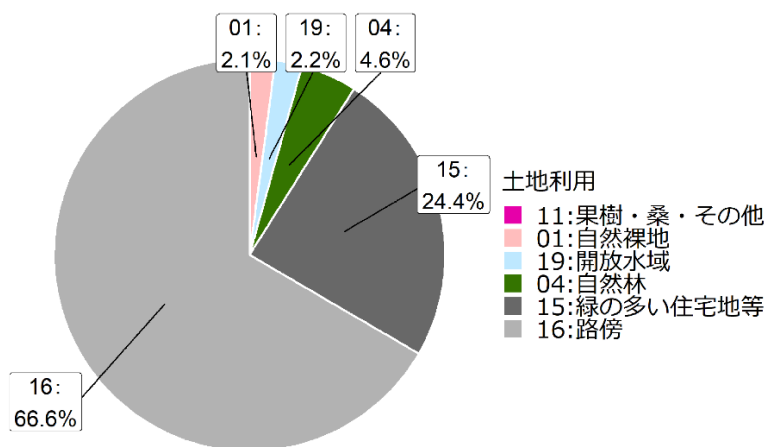


ニホンスッポン

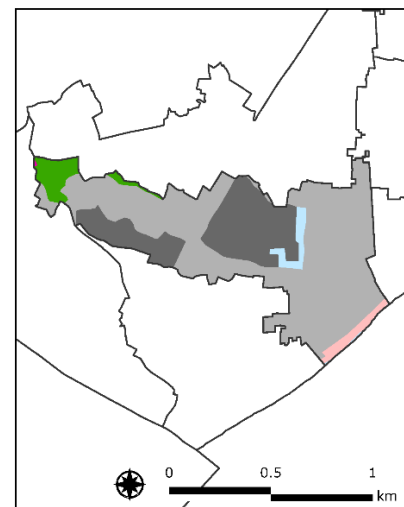


ハマヒルガオ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、路傍及び緑の多い住宅地等で約 9 割を占めますが、西部の一部で自然林や果樹園が見られます。東南側で相模湾に面する海岸部は自然裸地が広がっています。⁶



幸地区の土地利用割合



幸地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：「城山公園」は、森林公園として市民に親しまれる一方、一部は陸上競技場としても整備され、レクリエーションの場として活用されています。また、スダジイやタブノキ、イヌマキ等の暖帯の自然林の観察や、イヌシデやケヤキなどの落葉樹、林間の野鳥や樹林・草地の昆虫などの自然観察にも適しています。⁷
- **自然体験・観察の場**：「小田原城址公園」は、国の史跡に指定されている小田原城本丸を中心に整備され、市の貴重な文化的遺産として、市民に親しまれています。観光スポットとしても人気であり、クスノキ、クロマツ等の大木や、桜やウメ、フジ、ツツジ、ハナショウブ、ハス、紫陽花など四季折々の花の観察、お堀に集まる水鳥等の自然観察も楽しむことができます。

⁶ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁷ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所,平成9年（1997年））

- **自然体験・観察の場**：「御幸の浜」海岸は、景色が良く、伊豆半島や三浦・房総半島も見渡せ、海辺の散歩などが楽しめます。夏には海水浴も楽しめ、元旦（1月1日）には、初日の出にあわせて元旦初泳ぎも行われていました。⁸また、釣り場としても利用され、レクリエーションの場として活用されています。一方で、海岸侵食や砂浜の減少による美しい海岸線の保全が課題となっています。⁹
- **自然観賞の場**：「清閑亭（旧・黒田長成別邸）」は、明治時代に活躍した黒田長成侯爵の別邸として、明治39年（1906年）に神奈川県足柄下郡小田原町（現・小田原市南町）に建てられました。旧小田原城三の丸外郭土塁の南向き傾斜地に位置しており、晴れた日は母屋から真鶴半島や大島を望む相模湾や箱根山を一望できます。¹⁰
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「松原神社」では、漁業と関わりの深い松原神社例大祭が行われ、古くから生活の営みの心の支えとなるなど自然と深いつながりがあります。

◆「松原神社」

松原神社は、小田原北条氏以降、歴代城主が崇敬してきた小田原の総鎮守とされています。毎年5月に行われる松原神社例大祭は、漁師の祭を起源とする「小田原担ぎ」という独特の神輿の担ぎかたが特徴で、漁場での作業を陸地で再現した形になっています。神輿を船に見立て、まず神輿を静止した状態で、木遣り（きやり）を唄います。木遣りが終わるやいなや、「オイサー」「オリャサー」という掛け声とともに、神輿は勢いよく数十メートル突っ駆け、高張りという提灯を持った若い衆の前でピタリと静止。これは、漁船が漁場まで短時間で移動する様子を表しており、この静と動の担ぎ方こそ小田原担ぎの最大の特徴です。また、千度小路龍宮神社と古新宿龍宮神社の神輿が、「汐（しお）ふみ」と呼ばれる浜降りも行います。¹¹

- **景観スポット**：「城山界隈」や「小田原城天守閣」からは、相模湾や真鶴半島、箱根山、市街地等の眺望を楽しむことができます。¹²

～食のつながり～

- **水産加工品**：箱根の旅人の携帯食としても重宝されたかまぼこは、海からの恵みと箱根丹沢水系の良質な水により生まれました。小田原の地場産業として有名なかまぼこや干物は、昔は浜辺から魚の水揚げを行い、店先に並ぶ商品までの過程すべてが一連の建物の中で行われていました。¹³「小田原かまぼこ通り」には、かまぼこの本店の他、干物屋や鰹節屋、料亭、飲食店、和菓子屋など約30店舗¹⁴が軒を連ね、現在も食を供給しています。

【地区で見られる特徴的な自然】

天然記念物や巨樹・巨木林に指定・選定されるなど、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **天然記念物**：「小田原城址公園」内の次表の樹木は、天然記念物（小田原市指定）に指定されています。

⁸ 出典：小田原市 HP 観光スポット <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/spot/>

⁹ 出典：小田原市環境基本計画-改訂版-（小田原市環境部環境政策課，平成29年（2017年））

¹⁰ 出典：小田原市 HP 図書館・博物館・文化施設 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/>

¹¹ 出典：オダワラボ HP を参考に作成 <http://odawalab.com/report/matsuri.html>

¹² 参考文献：小田原ふるさとの原風景百選（小田原市環境部環境政策課，平成19年（2007年））

¹³ 出典：地域別計画 市民の力・地域の力（小田原市，平成23年（2011年））

¹⁴ 出典：LITTLE TRIP 小田原 HP を基に作成 <http://www.odawara-kankou.com/>

天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
御感の藤	市	昭和32年（1957年） 3月30日	小田原城址	二宮神社寄りの堀のほとりに植えられている3株のノダフジ。東側の株は樹齢約200年、中央の株は樹齢約150年、西側の株は樹齢約100年の古木。5月の開花期に、藤棚全体にわたって1m内外に及ぶ花房が下った様子は壮観。
小田原城跡のイヌマキ	市	昭和49年（1974年） 3月30日	小田原城址公園	イヌマキは、関東南部以西の海岸地帯の森林に多く自生する暖温带林を代表する常緑の高木。常盤木橋の前にあり、幹回り4.5mに及ぶ小田原市内最大の巨木。
小田原城跡本丸の巨松	市	昭和56年（1981年） 3月30日	小田原城址公園	天保年間（1830～1844）に書かれた「相中雑誌」の中に、「御本丸多聞櫓の近き方に七本松という老松あり（以下略）」とあり、この木はその7本松のうちの1本と推定。害虫のため、市内の美しい松の大きさが姿を消す中、幸いにして残っており、今日では市内で最大。
小田原城跡のビャクシン	市	昭和56年（1981年） 3月30日	小田原城址公園	ビャクシンは、本州、四国、九州の主として海岸地方に自生し、また、庭園や社寺境内などにも植栽される樹木。この木は市内で最大級のもの。

※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

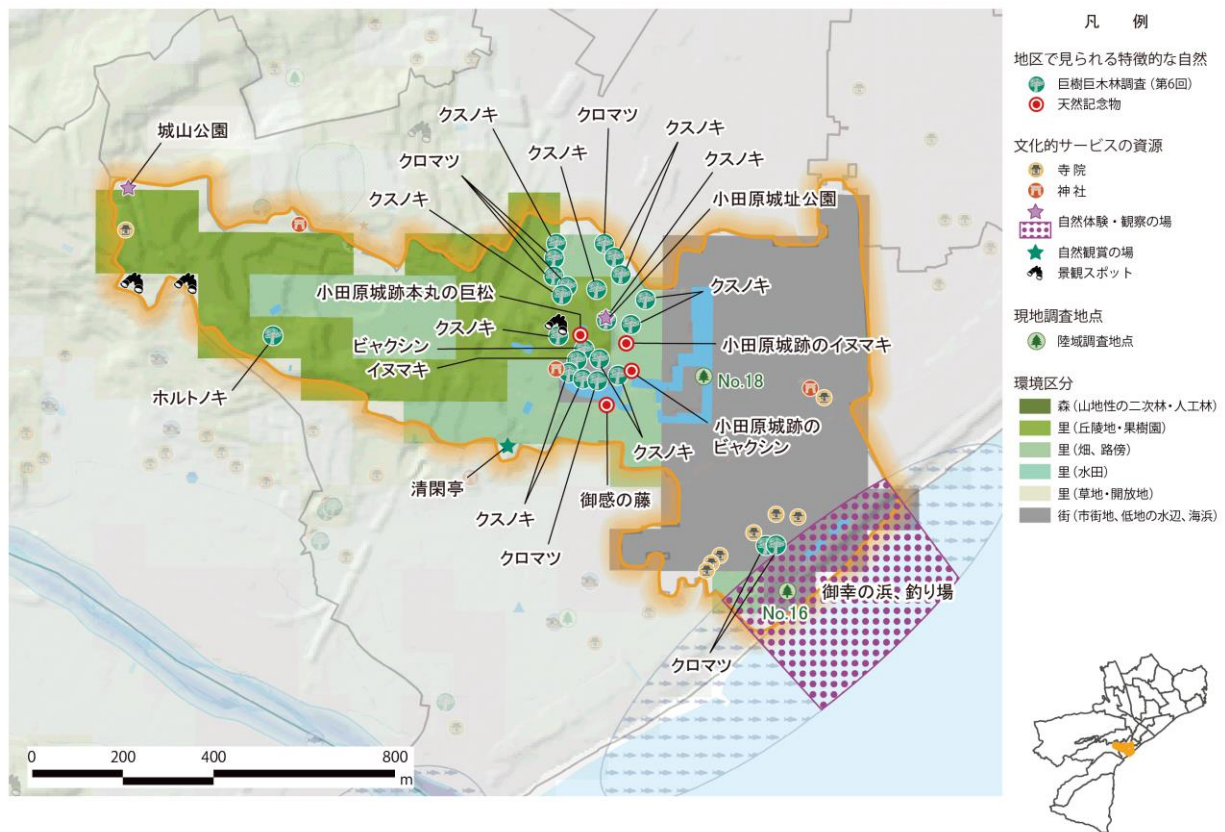
- **巨樹・巨木林**：「妙泉寺」、「小田原城跡三の丸外郭新堀土塁」、「小田原城址公園」に生育する次表に示す樹木及び樹林は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査¹⁵で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
妙泉寺	クロマツ	15	320	平成12年（2000年）
	クロマツ	20	350	平成12年（2000年）
小田原城跡三の丸外郭新堀土塁	ホルトノキ	18	340	平成12年（2000年）
小田原城址公園	クロマツ	28	530	平成12年（2000年）
	イヌマキ	20	450	平成12年（2000年）
	ビャクシン	15	310	平成12年（2000年）
	クスノキ	15	330	平成12年（2000年）
	クスノキ	18	370	平成12年（2000年）
	クスノキ	15	320	平成12年（2000年）
	クスノキ	18	350	平成12年（2000年）
	クスノキ	18	330	平成12年（2000年）
	クスノキ	17	330	平成12年（2000年）
	クスノキ	18	360	平成12年（2000年）
	クスノキ	20	350	平成12年（2000年）
	クスノキ	17	380	平成12年（2000年）
	クロマツ	18	430	平成12年（2000年）
	クロマツ	20	350	平成12年（2000年）
	クロマツ	20	320	平成12年（2000年）
	クスノキ	18	730	平成12年（2000年）
	クロマツ	18	430	平成12年（2000年）
	クスノキ	18	380	平成12年（2000年）
	クスノキ	19	480	平成12年（2000年）
	クスノキ	17	320	平成12年（2000年）

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

¹⁵ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査



幸地区の自然環境マップ